

第4回 大宮公園グランドデザイン検討委員会 議事要旨

- 本日は、パブリックコメントに向けた最終段階である。大宮公園グランドデザイン(案)について、これまで委員の皆様からいただいたご意見のうち、大切な視点が抜けていないか、ご意見をいただきたい。また、県民の皆様に向けてお示しするものが、このような表現でよいかという視点も含めて、ご確認いただきたい。
- 本日はまず、スローガンとしての将来像について、ご意見をいただきたい。
- 「氷川の杜と見沼田んぼ」をスローガンとしていただいたことはありがたい。ただ、大宮に住む子育て世代の立場からみると、森や広場だけでは楽しさがない。子どもを遊ばせる遊具や施設・売店など、親子で楽しく遊べる要素が欲しい。
- 「氷川の杜と見沼田んぼ」というスローガンは、公園の本質を象徴している。ただ、テーマを絞ると多面的な要素が表現されない。
- 今回の案について、全体として否定するところは特にない。総花的に書かれているが、大宮公園に特徴的なものがない。日本や世界で一つしかないものがあるとよい。パブリックコメントで県民に意見を求めても、文句をつけるところがない。提案をもう少し絞った方がよいのではないか。
- 「開かれた」という言葉が入るとよい。行政が計画を固めてしまって、民間は入り込む余地がないような印象を受けてしまう。
- 開かれた公園として、多様な主体で公園を運営するという考え方は、施策の「持続可能な公園運営のしくみづくり」の中で示されている。ただし、それがスローガンとして表現されていない。「開く」ということを前提に国は法を改正したが、現場はそうはなっていない。公園はこれまで、民に開かれたものではなく、行政がオープンスペースを管理して守るという考え方であった。運営・パークマネジメントの視点は薄かった。
- 「ライフスタイル」、「創造」という文言は、どちらかというとな個人的なイメージである。公園は「パブリック」な場であることを表に出したほうがよい。「開かれた」、「にぎわい」など、人が集まっていることがイメージできるキーワードがあるとよい。
- 県民にとって、大宮公園が今後どうなるのかは大きな感心事である。大宮公園がどうなるのかを、一言で説明できなければいけない。「開かれた」というと、誰でも参加できるような印象だが、どこまで開かれているのかを示しておく必要がある。氷川の杜や見沼田んぼなどは歴史があり、そこに懐かしい過去があると同時に、未来へとつながっていく視点が必要である。大宮公園から地域を変えていきたい。「大宮公園が変わる・大宮公園から変える」というメッセージを発信したい。県民のやりたいことを後押しするようなグランドデザインであるとよい。大宮公園は次のステージにいくというメッセージでもよい。
- 都市が公園を変えるのではなく、公園が都市を変えた事例はあるのか。
- ニューヨークのセントラルパークなどは、まさにその事例である。今では地価が最も高いエリアになっている。
- 大宮公園があることが大宮の価値である。「鉄道のまち」といっても、駅の中を通り、ニューシャトルの往復、鉄道博物館だけで終わってしまう。大宮公園や氷川神社をつなぐことが必要である。大宮公園を最大限に地域の参加で盛り立てていただきたい。

- 「樹林が印象的な空間をつくる」ことや、「舟遊池まわりの美しい景観をつくる」ことは、技術である。大切なことは、大宮公園が今後、どう変わろうとするかというメッセージである。
- スポーツ施設の方針に関する記載が少ない。パブリックコメントにおいては、スポーツ施設が今後どうなるのかという点について、意見が多く出されるのではないかと思う。スローガンについては、「氷川の杜と見沼たんぼの継承」の前に、冠言葉として「都市公園から公園都市へ」を加えてはどうか。
- 「都市公園から公園都市」というのは、分かりやすくよい。
- 公園を運営する立場としては、公園の来園者数等が成果目標として問われるため、お客さん本位にならざるをえない中で、池のボートにスワンなども出てきてしまう。例えば桂離宮のように、歴史的な名園としてのテーマが明確であればよいが、公園は色々なものを許容する多面性があるがゆえに、焦点を絞りにくく、一つのコンセプトに基づくマネジメントがしづらい側面がある。スポーツについては、「その役割を終えた時点で撤去あるいは移転を検討」とあるが、役割を終えたのであれば速やかに撤去すればよく、移転しなくてもよいではないか。文化財的な価値があるのであれば、モニュメントとして残すことはあるかもしれない。
- スタジアムやアリーナなどのスポーツ施設の中でするスポーツは今後減っていき、例えばサーフィンやスケボー、マウンテンバイク、トレイルランニングなど、施設の外のフィールドでするスポーツが増えてくる中で、スポーツ施設という概念は今後なくなっていくのではないかと思う。プロチームの試合を観るスポーツにはスタジアムが必要だが、例えばサッカーなど特定のスポーツの用途に特化した施設整備が、今後どれほど必要とされるのかは疑問である。10年前にはなかったストラクラインというスポーツが最近出てきて、世界大会も行われている。今後、どんなスポーツが新たに出てくるかわからない。そうした中で、特定のスポーツのために施設を整備するという考え方は、今後あまり意味がない。日本の公園の弱点は、ボール遊び禁止など、禁止事項が多いことにあると思う。スポーツができない公園になっている。禁止事項を禁止するぐらいのことができるとうよい。公園利用のルールを5行以上増やしてはいけないというルールにしてはどうか。ルールがない分、その場所で皆が使い方を話し合いながら使うのが理想である。
- 国内にスタジアムは多くあるが、行政が整備して行政が管理するのではなく、民間が整備して民間が運営する時代である。また、サッカーだけでは経営が成り立たないので、サッカー以外の用途にも使えるものにしようという流れである。さいたま市では、運動公園にはしっかりとした設備があり運動ができるが、それ以外の公園は禁止事項が多く、運動ができず犬も入れない。
- 法律上は、運動公園か運動施設かで位置づけが違ふ。運動公園は建蔽率の上限が50%であり、それ以上の場合は運動施設になる。都市公園法が改正され、マネジメントの自由度は高くなっている。県が意思決定し、条例を変えれば、可能性は広がる。
- スタジアムを置くかどうかについては、スタジアムも自由なスポーツの場も、両方あってよいのではないか。スタジアムについては、スタジアムに付帯する商業施設をつくる等の工夫により、試合が行われていないときにどれだけ集客できるかが課題である。
- 自由なスポーツの場にアップダウンが必要であれば、里山の二次自然を舞台にすればよい。武蔵丘陵公園などの例もある。ミュンヘンのオリンピック公園は、もとは瓦礫の処分場である。山下公園は、ごみを埋め立てて美しい公園にした。良くないイメージの場所をきれいにする事ができる。

工夫次第で、立体的に山をつくることもできる。

- 年配の方々の方が公園に対して熱い思いを持っているが、30年後は遠い先の話である。パブリックコメントは多様な年代が回答すると思うが、若い人にもパブリックコメントに意見を出してもらえるよう、若者にもインパクトがあるものにしたい。そのためには将来像のスローガンが大切である。これだったらコメントを出したい、分厚い資料も読みたいと思わせるものにしたい。
- スローガンについて、これまで議論してきたキーワードは入っているが、並び方がよくない。「公園が舞台になるライフスタイル」が最初に来て、次に「懐かしさの継承」があり、最後に「開かれる」という新しさがある方がよい。「新しさ」は具体性が必要である。次世代の図書館、レストラン、パークサイドホテルなど具体的な要素が見えると、関心は上がる。運営方針も具体的に示すことができれば、賛成・反対の意見が多く出てくる。
- 現状でサッカーチームもあり、スポーツも重要である。スタジアムについては、収益事業としていかに成り立たせるかという問題と、運営主体の問題もある。また、フィールド型のスポーツに関するご提案もあった。第二公園と第三公園があるので、両者を両立させることもできる。マウンテンバイク等については、見沼たんぼが広がる第二・第三公園で楽しむことでもよい。提案に入れてみると、皆が食いついてくれるかもしれない。
- 例えば「1つのホテル、10個のレストラン」など、具体的に示すことができないか。「持続可能な公園運営のしくみづくり」については、「民との連携」ではなく民が主体になるようなイメージが打ち出せないか。責任だけ行政が担っているようなイメージになっているが、責任も含めてシェアするという雰囲気にした。
- フィールド型のスポーツの場づくりは、世界に先駆けてやればよい。それが「世界に誇る公園文化の創造」である。大宮公園から世界に発信する。世界中の都市が新しい公園づくりにチャレンジしている。札幌市でも、イサムノグチのアートの公園をつくった。従来の公園の概念にとらわれるのではなく、新しい文明をつくるということは、ランドデザインの狙い通りである。スポーツについては、スタジアムと、フィールド型のスポーツができる自由なスポーツの場の両方をつくるということでもいいのではないかな。
- スポーツ関係者は大宮公園がどう変わるかを気にしている。
- 歴史と文化、レクリエーションの要素で分けてはどうか。「空間づくり」という言葉は素人には分からない。言葉が専門的になりすぎている。
- スタジアム型のスポーツの場と、フィールド全体に変化を持たせてアクティブな体験ができる、フィールド型のスポーツの場をどのように配置するか。フィールドアスレチック、トライアスロンなどのフィールド型の活動をどのように入れるか。スポーツを観戦するスタジアムも、「観る・観られる」の構造ではなく、レストスペースなどの機能をいかに盛り込んでいくかという視点も必要である。レガシー、アート、メモリアル等の視点もある。4枚のスケッチは従来型でしかない。提案が立体的ではない。現状では、「より充実させよう」、「きれいにしよう」というだけで、新鮮味がない。
- 「ホテルや美術館、レストランがある」、「サッカーボールが蹴れる」、「ピクニックができる」などの具体的なイメージと説明があると分かりやすい。
- 民間活力を取り入れてスタジアムを整備し、スポーツ団体がマネジメントしつつ集客を図る場合は、

公園内のどのあたりのイメージか。

- 第二公園と第三公園をつなぐ機能が充実できるのであれば、第二公園でもよい。第一公園を歩いて行ってほしい。第一公園の脇の場所は自由なスポーツの場とするのがよい。社叢の隣なので、新たな賑わい施設はそぐわない。
- スタジアムは第二・第三公園でもよい。大宮駅、大宮公園駅からはバスでアクセスすることができる。
- 現状では、大宮アルディージャの声援で祝詞が聞こえないときがある。マイクを使うこともある。にぎわい施設は、できれば第二公園の方が良い。
- 氷川神社は年間600～700万人の参拝客が訪れる。公園全体の集客バランスの観点からも、第二・第三公園ににぎわい施設を置く方が、公園全体としての集客力が高まる。
- この委員会の初期に、「大宮グランドパーク」というネーミングがあったのがとても印象的であった。「大宮公園」というと古いイメージがあるが、「大宮グランドパーク」などの新しいネーミングがあると、変わるということが明確にわかる。また、「見沼たんぼの継承」とあるが、住民としてはあまり愛着がない。
- 「継承」が頭にくると、「変えない」という意思表示にも捉えられてしまうのではないか。
- 日々世界中からのお客様をお迎えしている立場としては、「世界に誇る」という言葉は、簡単に言うてはいけないと思う。世界に誇れる公園にするためには、そのプロセスを見せることも大切だと思う。
- 「世界に誇る」とあるが、わざわざ誇ると言わなくてもよいのではないか。
- 氷川参道は世界に誇れる資源であると思う。
- 盆栽村は日本文化の象徴であり、世界に文化を発信していることは間違いない。盆栽村との連携も大切である。見沼はエコロジカルなウェットランドとして価値がある。
- お土産の企画、販売を計画していく記載があるとよい。大宮ではこれまでこれほどお土産を作ってきておらず、メジャーなものがない。
- かつては行楽地、料亭などの歴史があった。東京から至近で多くの人が訪れたが、これからも当時と同様な位置づけで人を呼べるかどうかは疑問である。
- 盆栽村周辺には飲食店が少ないが、大宮公園の周辺には料亭が残っている。芸者さんもわずかながらいる。そうした地域資源とうまくつながるとよい。
- 今後、自動運転が普及すると、住む場所と寝る場所・働く場所が必ずしも駅に近い必要がなくなり、駅から離れるのではないかと思う。駅から近いから果たせる機能が、今後どのぐらい必要なのか。宿泊は必要なくなるかもしれない。キャンプ等はあるかもしれない。
- さいたま新都心や大宮駅東口の開発の動向を注視する必要がある。ホテルや食事場所は、そちらに魅力的なものができれば公園には不要かもしれない。周辺の開発の動向をふまえ、公園に必要なとなれば県や市にお願いするのがよい。
- 公園は緑地としての価値や環境の魅力がある。駅周辺は、宿泊や飲食の機能さえ果たせばよいが、公園は付加価値があり、役割が別である。
- 大宮公園は駅から近い。公園は楽しむが、食事や飲食は駅周辺に求める人が多いのではないか。
- 大宮公園に「パークホテル」があれば、外国人は来ると思う。歩くのも大好きである。都市部のホ

テルとは差別化できる。そうした中で、公園にあった方がいいのかどうかは議論すべきところである。

- ホテルを建てたい民間事業者がホテルを建てられる、オープンな枠組みがあるとよい。
- 清々しい神社や、公園の朝を感じてもらうには、泊まっていただくことが必要である。朝靄が出る朝の雰囲気は、近隣に住んでいる人にしかわからない豊かさがある。
- 緑の中に、宝物殿や料亭などの建造物があるとランドマークになる。フォーカスポイントがあった方が絵になる。以前、「武蔵野」の話があったが、今回はあまり明確になっておらず、気になっている。大宮公園の行楽地としての歴史をどのように位置づけるか。
- 売店や料亭は、社叢林の風格にあったものにすべきである。七五三やお宮参りで氷川神社に来られる方は、周辺の料亭で食事をする。氷川神社があることで経営が成り立っている。公園の中に趣のある料亭やお茶屋さんがあれば、流行ると思う。カフェよりお茶屋さんや料亭の方がよい。かつて、大宮公園ホテルがあった場所に、池の借景をしながら、そうした機能があるとよい。
- 明治、近代初期の文芸・文学の展示や食事サービスを提供するのがよい。文豪たちが都会から離れ避暑地として遊んでいた豊かな歴史がある。
- 氷川神社から現代のサッカーに至る中間の歴史がほしい。外国の人も和風の茶屋建築には惹かれる。歴史ある氷川神社から盆栽村につながる間の部分に、明治・近代の歴史や武蔵野の風景を感じる空間があるというのはよい。
- 池に柵は必要なのではないか。
- 公園管理者の管理責任が問われる時代である。事故等があれば訴えられる。外国の池には柵がない。その代わりに、浮き輪がある。日本の都市公園の課題である。水辺を浅くすることや、植栽を施すなどの工夫は考えられる。理想的な絵にするのであれば、柵はなくした方がよい。
- 平面図については、第一・第二・第三公園を強調しない方がよい。現状はその名前だが、将来的には一体的に考えようとしている。氷川の杜と見沼だけが書かれているが、スポーツ、武蔵野、明治期の行楽などの視点がある。歴史・文化とスポーツのエリア分けがあり、スポーツも施設型とフィールド型がある。
- テニス人口が減ってフットサル人口が増えているといった状況をふまえると、設計にどのぐらい意味があるのかが疑問である。そのときの情勢にあわせて自由にスポーツが楽しめるエリアがあるとよい。現時点で将来のスポーツのトレンドまで予想できない。今はチェスもスポーツという時代である。青空将棋もスポーツと言えなくはない。自由にやるとよいという方がよい。
- 「遊び」、「レクリエーション」だと思う。
- 公園というよりは「多目的広場」のようなイメージではないか。
- 観戦型ではなく体験型のスポーツというイメージである。
- 「歴史」と「文化」と「スポーツ」のように大きく括った方が分かりやすい。「氷川の杜」は「歴史」と「文化」、「見沼たんぼ」は「スポーツ」という括りにしてはどうか。
- 「文化」は人工的な要素が含まれる。本来は「自然」と「歴史」である。
- 自然と歴史が第一公園、第二公園がスポーツ・文化のイメージである。
- 「公園」を「幸園」と表現するなど斬新なアイデアがあってもよい。
- スポーツは、特定のスポーツを示さなくてよい。その時々流行にあわせて自由に使える方がよい。

- 第一公園と第二・第三公園をつなぐブリッジは、大雨が降ると冠水して通れなくなる。安全に渡れない。第二公園にスタジアムができるとしても、安全に移動できる空間が必要である。
- 水の流れをつくるというアイデアもあった。第一公園から第二・第三公園を水でつなげる。舟遊池から見沼までを水でつなげる。
- すべてのゾーンを「杜」、「広場」という名称ですませている。「季節の杜」とは何か。「水の広場」についても、単なる池ではなく水面そのものが機能を果たすべきである。言葉づかいは検討の余地がある。
- 「将来像の実現に向けて」については、エリア別に整理されているが、公園全体としてどのような手順でランドデザインを推進していくかという視点が必要である。まずは悪い場所を直すことが必要であり、その次に、統一的なコンセプトのもとに、「世界に誇る」公園の根幹を作っていくことが必要である。エリア別ではなく、公園全体としての手順を示す必要がある。事務局で再考すること。
- 「公園を核としたエリアマネジメント」は中期的な取組みとなっているが、第二・第三公園は、市民参加型のエリアマネジメントとしてすぐに着手できる。現状の第三公園はルールだらけだが、自由に楽しく遊べなくなるルールはいらない。社会実験的としてルールを外してみてもよい。
- スポーツの在り方などについて、ビジョンを描いた上で、参加型で取組みを進めることが重要である。マネジメントは民間が舵を切る。従来のように行政が事業を決めてプロポーザル提案を募るのではなく、民間から複数の事業を提案してもらい、それを元に関係者や専門家、住民などが一緒に議論することも考えられる。
- 「ソーシャルインパクトボンド」などの動きもある。社会的課題の解決に対して投資をしてくれる人が増えている。ぜひ、多様な手法を研究してほしい。
- ルールを取り払う社会実験の期間があってもよい。
- 行政任せにするのではなく、フロントに市民が立ち、県民や団体と一緒に取組むことが大切である。
- 社会実験として入れるのはよい。特定のエリアという選択もある。
- レギュラトリー・サンドボックスという制度がある。ここだけは色々なことを自由にやってよいというものである。
- 公園管理者がその気になれば、色々なことができる。
- 文化・アートの可能性も、もっと前向きに記載してほしい。もっと市民は色々やりたい。夜の公園（映画、音楽など）の活用も進めたい。現状では活用できてない。「ナイト○○」など一夜だけのイベントの取組みも実施、実証実験したい。
- グランドデザインの英語版は作るのか。外国人を意識することも必要ではないか。
- グランドデザインは県民に向けたものであるので英語版は作らないが、今後、外国人に向けて発信していくという視点は大切である。今後の課題として心にとめておいていただきたい。